

論文審査の要旨  
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 ( 学 術 )	氏名 Author	ANINDITA MAYA JULUNGWANGI
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation The Role of Religious Leaders in Pilgrimage Tourism: A Case Study of Gunungpring Sacred Graveyard in Indonesia			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	広島大学大学院国際協力研究科	教授 関 恒樹	印 Seal
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	教授 川野 徳幸	
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	講師 中空 萌	
審査委員 Committee	広島大学大学院総合科学研究科	教授 フンク、キャロリン	
審査委員 Committee	広島大学大学院文学研究科	教授 中村 平	
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>本論文は、巡礼と観光の発展の関係を、現代世界における宗教の世俗化、商品化の現象に注目しつつ、インドネシア・ジャワ島のイスラーム教聖者廟への巡礼観光の事例に基づき、考察した研究である。論文は全6章で構成される。</p> <p>第1章序論では、研究の背景としてジャワ島におけるイスラーム聖者廟への巡礼の伝統が述べられた後に、本論の目的として、イスラームの宗教的指導者キアイが巡礼と観光の発展に果たす役割、特にイスラームの商品化とキアイの権威、カリスマの関係を明らかにすることが述べられる。分析枠組みとしては、宗教社会学、人類学の分野における、宗教の商品化の概念が明確化される。第2章は、事例の背景として、ジャワにおけるイスラーム巡礼の歴史と現状が提示される。第3章は、事例が位置づけられるよりマクロな文脈として、ポスト・スハルト期においてイスラームの霊性が、人びとの生産性や効率性を高める資源として動員されつつある状況が述べられる。第4章では、調査地グヌンプリン聖者廟における巡礼が詳述される。第5章では、多くの信者を集めるカリスマ的キアイの事例から、政治的権力の獲得やビジネスの成功など、極めて世俗的願望が、人びとの巡礼の主要な動機となっている状況を示す。第6章では、世襲的キアイの事例から、キアイの権威の維持拡大と巡礼観光発展の関連性が論じられる。第7章では結論として、宗教の世俗化、商品化にもかかわらず、巡礼観光は拡大している状況が論じられ、またそのことは必ずしも宗教的伝統の衰退や頽廃を意味しないことが論じられる。</p> <p>このような内容を持つ本論文は、インドネシア・ジャワ島における現地調査と参与観察で得られた一次資料に基づき、今日の巡礼と観光の関係を明らかにした研究として評価され、審査委員一同の合意のもと合格と判断された。なお本論文の中心的議論は、査読付き論文 (ANINDITA MAYA JULUNGWANGI, 2019 Pilgrimage, Tourism and Community, A Case Study of Gunungpring Sacred Graveyard in Indonesia, <i>Journal of International Development and Cooperation</i>, Vol.25(1&amp;2):13-24.) として刊行済みで、学位論文提出要件を満たしていることも確認した。</p>			